

## 一般演題【HBO装置関連】 高気圧酸素治療の現状について ～ユーザーにおける運用状況 2022－2023～

石曾根清一

エア・ウォーター・メディカル株式会社

日本で起きた高気圧酸素治療装置での最も大きな事故から四半世紀が過ぎた。いまだにこの事故が国内で最後の事故であることは、ひとえに関係する医療従事者の並々ならぬ努力の賜物と想像される。

この事故は残念ながら弊社が取り扱う装置で起こってしまったこともあり、弊社では二度と同様の事故が発生しないことを願って、同年より毎年肌寒くなりカイロの持込等のリスクが高まる秋口から納入先全施設を訪問し、実際に治療に携わる方と顔を合わせ、安全使用に関する啓発活動を行っている。毎年10月より開始し、啓発活動と合わせて運用状況に関するアンケートにご協力頂いている。

調査対象は、弊社取扱装置が現在設置されている施設とし、稼働・未稼働の状況は問わず、全てを対象とした。ただし、使用できない状態で設置されている装置は除外した。

調査項目は、処方診療科、適応疾患別稼働回数(複数回答可)、生体モニターの有無と使用頻度、加圧方法等を調査した。

運用状況に関するアンケート調査は診療報酬改定前年の2017年から啓発活動に追加して開始し、コロナ禍であった2021年度はGoogleフォームを利用したWebでの調査であったため回答率が著しく低かったが、それ以外の年度においてはいずれも80%以上の回答を得ている。

今回は再度過去に発生した事故を振り返りつつ、診療報酬改定前からコロナ禍を経て、診療報酬改定から5年経過した2023年までの、弊社ユーザーにおける運用状況の変化について分析した結果を報告する。